

第46回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成28年2月24日（水） 9：30－10：30
2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、中須賀委員、松本委員、山川委員、山崎委員
 - (2) 政府側
小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、高見宇宙戦略室参事官、行松宇宙戦略室参事官、末富宇宙戦略室参事官、守山宇宙戦略室参事官、田村宇宙戦略室企画官
4. 議事要旨

冒頭、松本内閣府副大臣から、以下のような挨拶があった。

松本副大臣

- ・ 去る2月17日のHIIA ロケットの打上げが成功し、我が国宇宙システムの高い信頼性を示すことができた。
- ・ 米国では宇宙ベンチャーの発展がめざましい中で、我が国においても新たなベンチャーが生まれつつある。
- ・ このような状況を踏まえつつ、政府では宇宙関連2法案を今次国会に提出すべく作業を行っており、最終段階に入っている。

(1) 宇宙二法について

「人工衛星等の打上げ及び人工衛星の管理に関する法律案」及び「衛星リモートセンシング記録の適正な取り扱いの確保に関する法律案」の検討状況について事務局が報告を行った。検討状況については宇宙政策委員会として了承した上で、本日の議論を踏まえて事務局にて引き続き法案の検討を行うこととなった。主な意見は以下の通り。

- ・ 人工衛星等の打上及び人工衛星の管理に関する法律案については、規制のみならず、産業インフラとなるものとして、宇宙基本法の理念を踏まえて運用してほしい。
- ・ 衛星リモートセンシング記録の適正な取り扱いの確保に関する法律案については、規制する対象が広くなりすぎないように配慮してほしい、また、技術進歩に応じてよりフレキシブルに対応してほしい。

(2) 油井飛行士による国際宇宙ステーションの長期滞在報告

油井宇宙飛行士より、5ヶ月間の国際宇宙ステーションでの滞在報告を行っていただき、意見交換を行った。主な意見ややりとりは以下の通り。

- ・ 国際宇宙ステーションの運用延長については、これまでも宇宙政策委員会で議論してきたところ、これを実際にどう活用するかが今後の課題である宇宙システムの海外展開について、アジア諸国

からの関心の高さを踏まえ、敷居の高くないような形で、ISS 上での共同実験を行うなどのアイデアもあり得る。

- ・ 油井宇宙飛行士からは、自分が5ヶ月間のミッションを通じて日本の存在感を示すことができたことに加え、帰還した直後に運用延長が決まったことは非常にうれしい。日米宇宙協力が新しいステージに入ったと感じ、身が引き締まる思いである。SNS を通じてインドネシアやフィリピン、タイといったアジア諸国から多数の応援メッセージを受け取った。こうした国々との協力は夢を与えるのみならず、地域の安定にもつながり、アジアをリードする日本としての存在感を示すことができるという話があった。
- ・ 小型衛星の放出前に充電や不具合をチェックすることはできないか、という質問に対し、油井宇宙飛行士から、クルータイムが限られている中で何をすることが最も効果的かという検討が必要だが、非常に良いアイデアであり、衛星の設計段階から検討すべき内容であり、自分としても考えていきたい、という話があった。
- ・ このほか、ISS 運用延長は成果の最大化及びコスト削減が重要であり、関係者には尽力いただきたい、という意見があった。

以上